

3.市民ホール基本計画策定専門委員会

(1)専門委員会経過一覧

開催日	会議名	主な検討内容等
平成 23 年 5 月 25 日	第 1 回	・ 委員自己紹介、委員長・副委員長選出 ・ 基本計画策定の流れについて ・ 市民検討委員会について
平成 23 年 8 月 26 日	第 2 回	・ 市民ホール基本計画（事業）について ①第 1 回、第 2 回市民検討委員会について ②市民ホールに期待される事業と活動について
平成 23 年 10 月 21 日	第 3 回	・ 市民ホール基本計画（施設）について （ホール系機能、小ホール系機能、展示室機能）
平成 23 年 11 月 7 日	第 4 回	・ 市民ホール基本計画（施設）について （交流系機能、創造系機能、支援系機能、防災、 景観、ユニバーサルデザイン）
平成 23 年 12 月 12 日	第 5 回	・ 市民ホール基本計画（施設・運営について） （防災、景観、運営、組織、基本計画骨子）
平成 24 年 1 月 31 日	第 6 回	・ 市民ホール基本計画（素案）について
平成 24 年 3 月 27 日	第 7 回	・ 市民ホール基本計画（案）について ・ 市長への報告

(2)専門委員会委員意見(第7回会議から) ～パブリックコメントをうけて～

【施設の目指す方向性 ～芸術文化創造センターとして～】

- ・ 名称については、ホールの名前が芸術文化創造センターになるわけではなく、センターとしての機能を持たせることだと考えている。
- ・ 「センター」とは、既存施設を含め、小田原の中心としての象徴的な場になるという意味であり、仮称として芸術文化創造センターとしたが、そのことで市民が固い印象を受けたり、自分とはかけ離れた場所で話が進んでいると思ってしまったりということもあるかと思う。

【事業方針】

- ・ 現在想定している大規模な事業は、年間スケジュールに位置付けることを前提とするため、管理運営計画の中でそのことを想定して検討を行うとともに、そのプロセスを市民に伝えていくことが大切。
- ・ 今まで貸館だったので美術系の催しが入る余地がなかったが、主催事業のひとつとして、一定の期間を確保して美術系の催しを行うこともできる。
- ・ ワークショップは、経験を問わず皆が同一レベルで遊ぶということが大事であり、あらゆる芸術活動がそこから始まるという意味では、芸術文化創造センターの芽と言う

こともできる。

- ・コンサートを企画する場合、5年はあつという間なので、オープニング事業を行うのであれば3年前から動かなければ難しい。

【施設整備の基本的な考え方】

- ・バリアフリーについて貴重な意見をいただいたが、バリアフリーは最大限の努力目標であり、今後も議論を重ね、実際に設計に反映させて実現させていくことが重要な課題である。
- ・基本的には、ユニバーサルデザインになっていれば、障がい者にも健常者にも優しい施設となる。
- ・実際に建設するとなると、市民の皆さんは景観に大きな関心を持つと思うので、設計者だけではなく皆で知恵を出していく必要があると思う。
- ・建設費や運営費などのコストの問題も、今後整理していく必要がある。

【ホール共通】

- ・舞台技術系の部分については、基本的なものが十分に整備された、シンプルな設備とした。
- ・劇場規模に公式というものは無い。
- ・客席規模については、席数が多すぎるという意見と少なすぎるという意見の両方があったが、使い勝手が良く、適当な席数になったのではないかと。

【大ホール系機能】

- ・大ホールは1,200席だが、客席を複数階層とし、1階席のみを開放することで600席～700席でも空席感を感じにくいホールとしている。
- ・人気アーティストは3,000席か4,000席無いと興行を行わないが、そのようなホールは限られており、演歌、ジャズ、クラシックなどは、1,200席あればある程度採算が取れる席数である。

【展示系機能】

- ・展示の部分については、展示系の委員に加わっていただき、天井高を4mとし照明をきちんと取れるようにするなどの指摘をいただきながら策定に当たった。
- ・ギャラリーの面積は、委員会において協議の上350㎡としたが、大規模展示の場合はギャラリーだけでなく、施設全体を活用することも十分に考えられる。
- ・展示スペースに関しては、フラットなスペースや壁面をフルに活用し、外光を抑え展示用の照明を仕込むことで、大規模な展示を行うことが可能になる。

【施設構成イメージ】

- ・様々な事業に対応できるようにするためには、ホールの各施設を連携させ、有機的に

使いこなす必要があるが、高層化すると行き来することができないため、使いにくくなってしまう。

- ・ギャラリーが 350 m²では足りない場合に、大スタジオを展示スペースとして利用することで大規模な催しにも対応できるが、そのためにはギャラリーと大スタジオが同じフロアの中で行き来できるようになっていなければならない。
- ・使い勝手の良いホールとして、具体的には搬出入のしやすさが挙げられるが、駅前に建設する場合、高層化しなくてはならないためエレベータ搬入になる可能性があり、裏動線を楽器や大道具などが通ることを考えると、使い勝手が悪くなる。

【施設計画におけるその他の留意点（駐車場・周辺環境・備品）】

- ・鑑賞後に余韻に浸る場所も必要であり、車に乗ることですぐに非日常から日常へと帰ってしまうのでは、鑑賞の仕方としては味気ない。
- ・市民の皆さんには、小田原は歩けば色々なものがあり、ロケーションにとっても恵まれたまちということも認識していただきたい。

【市民参加】

- ・ボランティアについては、責任を持って仕事をするためには必要な経費があり、ユニークな運営をしていくためにはそれだけ人件費がかかるということを認識すべき。
- ・自分達が観たいもの、観せたいものを自分達で企画してやっという動きがなければホールはなかなか活性化しないが、市民検討委員会を通じて市民の皆さんが企画する文化活動が生まれたことで、その芽が見えてきたのではないかと感じている。
- ・市民の皆さんの活動と芸術分野の専門家の提案とがうまく繋がっていくことが重要である。

【敷地計画】

- ・専門委員会では三の丸地区での整備を前提としており、建設地については検討しなかったが、市民検討委員会での議論も含めてホールの内容が固まってきてみると、駅前に建てられないことは確実である。
- ・基本計画に示された設備・事業の施設とすると、駅前では十分な広さを確保できないが、高層化すると建築費が跳ね上がってしまう。
- ・駅前では防振も懸念される。
- ・できるだけ建設費を抑える必要があるが、駅前で整備するとなると、防振構造にしなければならない。
- ・駅前への劇場の建設は、観客が小田原に来ても駅周辺しか行かずに帰ってしまうことになり、まちにとってあまり良いことではない。

【三の丸地区の整備】

- ・小田原城との連携など、観光拠点としての活用も、今後検討したほうが良いかもしれ

ない。

- ・まちづくりや都市計画の視点からの小田原駅や小田原城との関係、全市的な施設の配置、沿線の施設との関係などについて、もう少し整理しても良かったかもしれない。

【整備スケジュール】

- ・全市的な施設の配置を含めたスケジュールについては、短期的な解決は難しいが将来的に実現可能なものもあるかもしれないので、長いスパンで考えていただきたい。
- ・市民ホールに盛り込めなかった施設については、将来実現させたり既存施設を活用したりするなど、中長期的な考え方も示していく必要がある。
- ・ホールの運営には、市民の皆さんが何らかの形で参加していくことになるので、その参加の方法を今から考えるとともに、設計についても、専門家だけでなく市民の皆さんの意見を聞く必要がある。
- ・運営、設計での市民参加をどう設定するかが次の課題である。
- ・あまり平均的なものを造ってしまうと、建築物としてつまらなくなる可能性もあるが、今後検討される運営組織では、建物に関係なく検討できる部分がたくさんある。

【市民検討委員会・策定検討委員会について】

- ・専門委員会では、市民の皆さんの想いを実現させるにはどうしたらいいかに心を砕き、策定に当たってきた。
- ・基本計画には市民の皆さんの想いが込められている。
- ・他都市にていくつかの基本計画に携わってきたが、市民の声をほとんど聞かずに策定され、開館後が心配になったこともあったので、小田原市が多くの市民から意見を聞いて策定に当たったことは非常に良かったと思う。
- ・市民検討委員会と専門委員会で何度も議論を行うのは非常に大変だったが、良い進め方だったと思う。
- ・パブリックコメントの8割から8割5分程度は、市民検討委員会で検討されて盛り込まれたものと言えるが、検討が足りなかったものは、今後さらに検討する必要がある。
- ・市民の皆さんの意見を100%叶えるのは不可能なので、全てにおいて平均的に80%の能力を有するホールの実現を目指したい。
- ・市民検討委員会に参加した方やパブリックコメントで意見をおっしゃった方は、これから新しいホールのお客様にも利用者にも表現者にもなりうる方である。
- ・ホールについての意見として、実際の大きな核となるのは観に来る人達であり、観客が何を観たいのかは非常に重要である。
- ・市民の皆さんの意見を盛り込むことで、自分達のホールという愛着が生まれてくる。
- ・今後50年100年と施設が続いていくうえで、ホールづくりの基本計画に市民の意見が入っているということが大事だと思う。

【市民に対する説明・情報提供について】

- ・基本計画中の文言には、読み手に伝わらない部分もあったことを認識しなくてはならない。
- ・私達が自明だと思っていたことが、実はそうでは無く、その部分の記載が基本計画に足りなかった。
- ・専門委員会としては、美術系の活動をされる方々がギャラリーと支援系機能の部屋を一体として利用したり、音楽と美術のコラボレーションを行ったり、サロンコンサートを行ったりと、工夫次第で様々な使い方が出来るホールとして提案したつもりだったが、それをご理解いただく必要があると思った。
- ・パブリックコメントを読むと、基本計画に書いてあるけれども伝わっていないと思える部分があったので、もう少し分かりやすくするとともに、基本計画の内容を理解していただく活動を行っていく必要がある。
- ・基本計画を理解していただくための働きかけが必要である。
- ・今後、基本計画の周知を図っていくのはソフトの問題である。
- ・ホール建設に反対の方々や興味のない人にご理解いただくのは難しく、時間もかかるが、どこにも建てないというのでは文化振興をスタートさせることもできないので、「ホールの開館が待ちきれない」という意見が力になると期待している。

【その他（市民ホール・基本計画全般について）】

- ・文化振興については、この施設で全てが解決できるわけではない。
- ・基本計画は土台であり、これから多くの過程があると思うが、小田原らしさというのはこの中から生まれてくるものなので、文化の面で小田原らしさを創るために計画を推進していくことができると良い。
- ・市民全員がホールに来たり利用したりするわけではないが、そのような人でも「自分には行かないが、ホールがあることは良いことだ」と誇れるホールが出来ると良い。